街角景気5カ月ぶり改善

東北3月 基調判断も上方修正

東北活性化研究センターが9日まとめた新潟を含む東北7県の3月の景気ウオッチャー調査によると、街角の景気実感を3カ月前と比較した現状判断指数（DI）は、前月より6・4ポイント高い53・6となった。5カ月ぶりの改善で、景気判断の分かれ目となる50超えも5カ月ぶり。センターは基調判断を「（東日本大震災からの）復興関連を中心に持ち直しの動きが続いている」とし、8カ月ぶりに上方修正した。

前月までは「持ち直しの動きは緩やかになっている」との判断を6カ月連続で据え置いていた。センターは「円安で製造業の経営環境が改善したほか、消費面でも年度替わりの季節需要などがあった」と分析した。

ウオッチャーからは「住宅の建て替えなど震災関連需要が続いている」（設計事務所）、「復興特需が続き、宿泊やレストランの売り上げも順調」（都市型ホテル）との声が上がった。一方で「ガソリン価格上昇が家計を圧迫し食品の消費が抑えられている」（スーパー）との指摘もあった。

3カ月先の景気見通しを示す先行き判断DIは、前月比1・3ポイント低下の49・1。原油高や福島原発事故の風評被害などが懸念材料になっている。

センターは内閣府実施の東北分の調査を担当。対象は小売関係者ら210人で、200人が回答した。

「持ち直している」とし、前月の「依然として円高の影響が残るものの、緩やかに持ち直している」から判断を上方修正した。引き上げは8カ月ぶり。

指数を構成する家計、企業、雇用の3項目がすべて前月に比べ改善。復興ムードを受けて飲食・サービス関連の消費が活発化した。

とうほく 経済

2ヵ月連続 全国も改善

復興需要が寄与

内閣府が9日発表した3月の景気ウオッチャー調査によると、街角の景気実感を示す現状判断指数は前月比5・9ポイント上昇の51・8と2カ月連続で改善した。円高の一服で輸出企業の業況が好転したことや、東日本大震災からの復興需要の本格化が寄与した。

内閣府は景気の現状を

鉱工業生産1.2%上昇

東北2月 基調判断は据え置き

東北経済産業局が9日まとめた2月の東北の鉱工業生産動向（速報）によると、季節調整後の鉱工業生産指数（2005年＝100）は前月比1・2%上昇の94・8となり、3カ月連続で改善した。東北経産局は前月上方修正した基調判断は「持ち直しの動きで推移」と据え置いた。

生産指数は依然として震災前の99・6を下回っている。全18業種別では9業種が改善した。特殊鋼切削工具などが好調だった一般機械は4・0%上昇の91・8、電子部品・デバイスは1・5%上昇の114・3、自動車などの輸送機械は3・5%上昇の143・5となった。

悪化も9業種で、窯業・土石製品が7・8%低下の72・4、情報通信機械は2・1%低下の86・8だった。

出荷指数は3・5%上昇の101・7、在庫指数は0・7%低下の99・8だった。

東北経産局は「一般機械と電子部品・デバイスは生産が好調であっても、短期間の需要増という側面もある。円高など不透明感もあり、引き続き動向を注視したい」としている。

移転した日本ヒューレット・パッカード仙台営業所

日本HP

全社挙げ復興に貢献

移転の仙台営業所 開所式

米コンピューター大手ヒューレット・パッカードの日本法人は9日、東日本大震災を受け、仙台市青葉区一番町のビルから同区中央の東京建物仙台ビルに移転した仙台営業所の開所式を、移転先に近いパレスへいあんで行った。

新ビルでの業務は既に1月から始めており、開所式は新年度のスタートに合わせて実施。取引先など約180人が出席した。

日本ヒューレット・パッカードの小出伸一社長はあいさつで「（被災地の）復興に全社を挙げて貢献したい」と強調した。式典後、「被災地の自治体に（環境負荷の小さい）スマートシティーの運用システムの提供などを提案している」と明かした。

日本法人の東北での売り上げは震災後、各種データのバックアップに必要なサーバーなどの需要増で前年同期比2～3割増という。仙台営業所は移転に合わせ、1桁だった人員を13人に拡充し、東北の法人や自治体向けの営業を強化した。

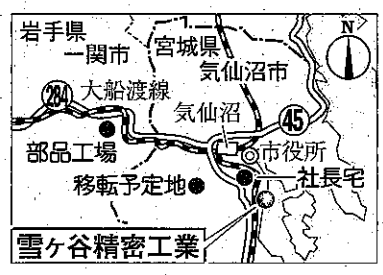
仙台営業所は震災で事務所内の設備が倒れるなどして約1カ月間、業務を停止。より地震に強く、広いスペースも確保するため移転を決めた。

自宅の仮工場から新天地へ

があるわけじゃないから、大きな看板なんて必要ない」。菊田社長は淡々と語る。

津波で壊滅被害

同社は耳鼻科で使われる医療用椅子の設計と生産を手掛けてきた。海沿いにあった本社工場は昨年3月11日、東日本大震災の高さ10㍍の津波に襲われ壊滅し



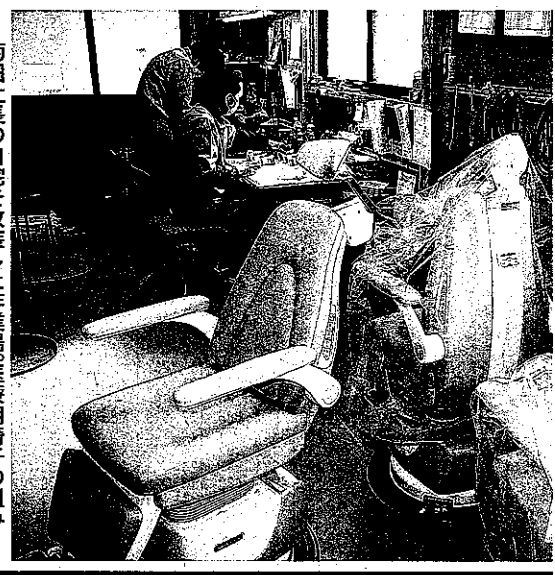
「再開を目指すか、廃業するか」。病床での迷いを残った5人と共に組み立ての再開から目指し、自宅の物置を作業場に改装した。続いて敷地内に建てた木造小屋に塗装設備を設置。かつての牛舎を部品保管庫とした。

生産設備手作り

約300点に及ぶ部品製造は「すぐには難しい」と考え、被災を免れた気仙沼の一角を借り、関東方面などを回って中古品の生産設備を買いそろえた。部品を固定する台座など工具類は従業員が手作りした。

生産設備探しにも奔走した狩原初男工場長（55）は「高台から濁流に沈む工場を見た時は言葉を失った。再開できるとは考えもつかなかった」と率直に語る。

新たな部品工場は決して使い勝手がいいとは言えない。それでも再起への手応えをつかんだ現場の表情は



菊田社長の自宅を改装した作業場。医療用椅子の組み立て作業が進む

技術発掘 成功モデルを

仙台 復興促進センター開所式

産業復興への貢献に期待が寄せられた復興促進センターの開所式

文部科学省所管の独立行政法人、科学技術振興機構（JST）は9日、地元企業の技術革新につながる大学などの研究を支援する「復興促進センター」の開所式を仙台市青葉区の市情報・産業プラザで行った。センターは2日付で岩手、宮城、福島3県にそれぞれ事務所を開設済み。開所式には大学や研究機関、企業の関係者約300人が出席した。

中村道治JST理事長は「3年間の事業だが、支援活動の第一歩と考えている」と述べ、継続的に被災企業を支援していく方針を説明。郡和子復興政務官は「（事業を通じた）震災復興の成功モデルが地域経済に活力を取り戻させ、いずれは日本経済をけん引すると期待している」と語った。

このほか元東北大総長の阿部博之JST顧問が基調講演し、センターが今後取り組む「復興促進プログラム」の事業説明会も行われた。

センターは科学技術の実用化経験のある「マッチングプランナー」が、地元企業が求める技術と研究機関のシーズ（種）を発掘。共同研究に結び付けば、1件につき毎年最大2000万円を助成するなどの支援を行う。

事務所は盛岡、仙台、郡山3市に設置された。

東芝新人研修で ワカメ生産支援

石巻などで実施へ

東芝は9日、東日本大震災で被災した石巻市と宮城県南三陸町で、新入社員がワカメ生産の支援活動を行うと発表した。新人研修の一環でとして、ワカメの袋詰めや養殖網の重り作りなどを手伝う。

認定NPO法人（特定非営利活動法人）ジェン（本部東京）の協力を得て実施する。16～20日までの間、同社とグループ会社の新入社員778人が3班に分かれ、それぞれ2泊3日の日程で作業を行う。

東北ミニ情報

◆…宮城県

出張サービス開始

ホームセンターのカインズホーム（群馬県）は仙台港店と仙台富谷店で、社員が出張して電球交換や屋外収納庫の組み立てなどを行う有料サービスを始めた。両店舗で購入した製品が対象で全18種類。電球交換の場合、基本料金は3個まで1200円など。住宅リフォーム事業の一環で、主に高齢者や女性の利用を見込む。

ワオ！のオンライン

生徒と講師、ネットで1対1

ワオ・コーポレーション

進学塾「能開センター」や「個別指導Axis」を全国展開するワオ・コーポレーションが、「ワオ！のオンライン家庭教師」受講生を募集している。（対象＝小・中・高生）

自宅と指導センターをオンラインで結び、インターネット環境を通して生徒と講師が1対1で向き合う。双方向のコミュニケーションにより、講師が目の前にいるような感覚で学習できる。

デジタルペン、デジタルノートなど専用機材を使った最先端の独自テムを採用し、手書式で解答・添削をリアルタイムに講エックできるので、の思考過程を把握論述問題や小論の、理解が難しい も的確な指導が受る。

講師は、現役東京大生、難関校を せてきたプロ講師。レベルな講師が、人の要望に合わせ、細やかに対応する。の解答や質問への

アドハイライト AD HIGHLIGHT

佐藤隆春さんの油彩画展

南欧の美しい風景紹介

東日本大震災で被

の美を求めて」が る。今回で15回目。

佐藤さんは19 仙台市生まれの洋 宮城県富谷町在住。

宮城県松島町の 喬平ガラス美術館 12日（木）から5 （火）まで、佐藤隆 の油彩画展「南欧

海岸で市民参加型の清掃活動などを行っている。今回は宮城県で行う第

伊豆沼の、美しい 境を守るため「2 クリーンプロジェ